

2011年4月25日

「原発被害地域の飯舘村を支援しよう！」

支援金のお願い

福島第一原発の水素爆発等での放射能被害で苦闘している、福島県飯舘村への継続的な支援のお願いです。飯舘村は、福島第一原発から30km～40kmのエリアにある6200人の村です。エコロジカルで自主的な村づくりを住民と行政で進めてきた村で、NPO法人EASも支援してきています。「までいな村づくり」（東北弁のまでい、真の手、じっくり、ゆっくりの意味）の理念のもと、スローで環境配慮、地産地消的な村づくりを進めています。村のエコセンターの機能を果たす全国的なエコハウスの「までいな家」の建設をEASは支援してきました。村の横にある特別養護老人ホームの燃料は村のチップで、地産地消をしています。

日本のモデル的な環境配慮、エコロジカルな村づくりを進めている村が、今、危機に陥っています。

村役場前の放射線量の値は、一時、45マイクロシーベルトに達し、その後20～10マイクロシーベルトに減少しましたが、まだ、4マイクロシーベルト台の状況です。村の南部では以前として10マイクロシーベルトの箇所もあります。飯舘村後方支援チームも協力して調査した、3月29日の京都大学今中先生達の調査結果でも、チェルノブイリでの強制避難区域よりも、土壌の放射能汚染状況が数段と高い箇所もありました。高濃度のセシウム137が検出され、土壌汚染に伴う長期的な放射能汚染の状況が危惧され、後方支援チームも国、村に対して、的確な避難と対策に関しての要望をしてきました。

4月11日には国からの計画的避難区域の提示がありました。国からの避難に関する的確な指示や対策展望に関しての提案もないままに、村、村民も混乱している状況でした。4月23日に国から、全村が計画的避難区域に正式に指定され、一ヶ月を目途に避難することが要請されています。ただ、国からの避難に関する具体的な条件提示は不十分なままで、どう避難するか、避難先の場所はどうするか、避難先での暮らしや生業、家畜の移動や対策に関しての明確な提示がないままで、まだ不安な状況が続く、村民達は困惑している状況が続いています。

後方支援チームとEASは、このような状況下で、総理大臣への要望や、今後の村の避難と復興再生の対策について、村や村民有志に提案してきています（詳細は本ホームページに掲載しています）。皆様からの義援金を村役場に渡すと同時に、義援金の一部を活用してマスクや放射線量計を村、村民に提供する支援活動をしてきました。

今週には村民有志による、飯舘村の村づくりの歴史でもある村民参画により、原発被害に対する村民達の行動が起きつつあります。我々は、この村民達の活動に関しても支援を始めています。一日でも早く、村に帰れるような対策活動、避難生活でも飯舘らしいまでいな暮らしが成り立つような支援を継続的にしていきたいと思っています。

今後の避難先での支援、村の復興、再生のために、緊急的及び長期的な支援が必要です。そのための具体的な現地での支援活動、村民活動への資金提供、器材提供等を含めた幅広い支援活動をするために、皆様から支援金の募金をお願いしたいと思います。今までの皆様をお願いしていた義援金の使用目的を拡大して、より幅広い支援活動が可能となるための資金としての募金を支援金の形式でお願いする次第です。

この趣旨に賛同して頂ける方は、下記のEASの口座に振り込みを頂けると幸いです。

尚、募金を振り込んで頂ける方は、下記のメールに氏名、所属、メール番号をお知らせください。

下記のHPに随時、現地の報告をしています。

<http://www.ecology-archiscape.org/>

特定非営利活動法人 エコロジー・アーキスケープ（EAS）

代表 糸長浩司（日本大学生物資源科学部教授）

eas@bronze.ocn.ne.jp

振込先

三井住友銀行 三田通支店 普通 8232380

特定非営利活動法人エコロジー・アーキスケープ